

東京美術学校を志望する人々へ

—— 今後の方向について ——

六三制の学校教育新体制の線に沿って、東京美術学校は本二十三年度の予科を募集しないことに決定した（二月二十一日官報発表）。学校の内にいるものの一人として、このことについていろいろ訊ねられることも多いので、分明していることを記し、わたくし個人の希望や学校の今の状況などを率直にのべてみたい。

終戦後本年度まで、従前のやりかたと異っている点は大体次のとおりである。第一に予科一年間は全くの長期入学試験のようなもので、基礎学科と、各科別なしに共通基本実技（デッサン等）を課し凡て必修とした。そして之等教課の上でも又人物の上でも本科へ進級の資格や素質がないと判断された生徒は除籍し、早く他の方面に志してもらった方が國家のためにも、本人のためでもあるということ。従って予科生はすいぶんつらい一年間であったと思う。次に本科は四年であるが、学科は単位制とし、規定の單位数を修得し、各年度の実技試験に合格点を取ったものは満三ヶ年本科在学後はいつでも卒業制作を提出して卒業し得るということ、つまり一年早く卒業出来るわけである。第三に、本科は四ヶ年であるが、優秀な生徒で勉強を続けたいなら、（本人の希望、或は科の先生の希望に従う）六ヶ年まで在学しても宜しいということ。之等のことは家庭の状況で早く出たいものは一年早く世の中に送り出し、一方本当に秀れた生徒には充分勉強の機会を與えたいという主旨からであった。別に二十一年度から男女共学制を取ってきたのである。

⑦ 生徒募集停止

新制大学への移行計画が進捗したため、本年度から生徒募集が停止された。停止の主旨と今後の入学志望者の心得について、村田良策は次のように公表した。

総計	特別研究生	選科	小計	特別学生	本科小計	師範科	建築科	工芸科					彫刻科	
								漆工部	鍍金部	鍛金部	彫金部	図案部	木彫部	塑造部
						特別学生	本科	本科	本科	本科	本科	本科	本科	本科
一八四		三	八		一七三	一九一	一二	一一	八	五	七	一九二	一〇	一八
一九五			四		一九一	一九	二四	一八	六	三	八	二二	八	一五
一八三					一八三	二〇	一八	七	一五	五	七	一八	六	一二
一〇七					一〇七	一二	一〇	八	一	二	四	一四	五	一四
一九六	二				一七六	一		二	二	二				一
八八	二	三	一二		七一	七一	六四	四八	三二	一七	二六	七三	二九	六〇
六八八		六八八				七二	六四	四八	三二	一七	二六	七五	二九	六一

新学制に従って今度はどうならなければならないかということについては昨二十二年夏以来学内で話し合い研究した。そして、音楽学校などと一緒にあって総合藝術大学案ということも考えられた。しかし現実の問題としては今迄の専門学校という制はなくなり六・三・三を終了したものを入学せしめる最高の四年制の学校にするか、或は六・三を終えたものを入れる高等学校程度の学校になるか、或は特殊な技術の学校として特別な教課過程と予算とを持つ学校として、やはり最高の専門学校のような学校として認めてもらうかであった。しかし何れにしても最高の学校でありたいこと音楽学校と異り必ずしも早教育の必要は美術教育の上では考えなくていいということ、基礎的教養学科は高等学校の方の方おまかせしていいこと、従って予科はなくていいこと、一般に今迄よりもっと一般的な知的教育をうけた者を容れた方が結果はよいであろうということ、とりあえず四年制の、そして六・三・三を修了したものを容れる学校にしたい希望であった。勿論現在のところ單科大学になったというのではなく、名称などは別に変えるなど、決定してはいない。入学資格もお細則が追って決まることと思う。

本二十三年度の予科を募集しないということについていえば、新学制による最高の四年制の学校になる爲には一年でも早い方がいいので、募集すれば、二十四年度には、最初の新制高等学校修了者で本科一年入学者と、本年度募集したとする場合の予科修了者で本科一年になった者とが重なり合って、旧制による一二三四年生と（その上に本科生は六ヶ年在学していいということ、在

籍生徒は増えている）新制本科一年生とが出来る。この生徒実数を收容する学校の教室数はない。今でも全く教室は足りないし設備は不足以上である。美校の教室はアトリエであり小工場を主体とするのでその面積は教授上の理想からいえば現在でも倍の面積は欲しい状態である。

生徒の学力が少しでも高いものを容れたいということ、学校の現在の物質面の不備、それから生じる授業上の不都合、従って成績が上がないということ、新体制に一年早く移行したいこと、之等のことから本年予科を募集しないことについて本省の了解を得たのであるが、学校自体としては予算面等でそれだけ大きく犠牲をあえてしたわけである。しかし物質面で一年間苦しくとも教育の実績を上げたいというわけであった。しかしこゝまで決まるまでに、全國の中等学校五年生、又去年入学できなかった人、或はずっとまゝに中学を出て所謂浪人している人々、或は中学を三年又は四年で退いて而かも志望する本校に入学しえないでいる人、それらの人々の失望とあてはずれの感を察しないわけではなかった。本年三月又は去年中学を出た人については新制の高等学校の二年又は三年に進学又は編入していただいて、それを了えて來年新制の本科一年に入学の受験をするようにしていただくことは決して夫等の人の損ではない。困るのは中途半端で中学校等を止めて浪人している入学希望者であるが、之等の人々の收容のことは今その方法はついていないので甚だ氣の毒である。

現在在学している生徒は、そのまゝ何かの校内での新制学級へ横すべり試験を行って適当な学年に繰り込むことが考えら



昭和23年 日本画科京都・奈良修
学旅行記念（平出敏子氏提供）

れるけれども、本校は戦時中満二十歳までに一定の学業を修得せしめるという主旨の下に中等学校三年修了者をも入学資格ありとして容れたので、現在その年齢は勿論学力等まちまちであるから、そのまゝ横すべりさせることはあまりにルーズすぎる。旧制のまゝ押出すのがいい。従って来年度には旧制の二、三、四年生と新制の一年生とが在学することになり二十七年度になってすっかり新制による生徒に入れ代わるわけである。旧制による卒業者が新制による卒業者に與えられるであろう資格と同等の資格を得るために何等かの補修過程^{〔課〕}をもうけるとか、研究科をおくとかとゆうことについては今まで決定的ではない。

以上で大体本年予科を取らないことに關し、併せて今後の学校の在り方の方向をのべたのであるが、次に私の個人的な希望をのべさせてもらう。

勉強をしたくても生徒個人の生活状態から困るものがあり、学校の方でも不備であったり教職員の個人的事情で充分な授業に差

支えができている点は各学校とも同様であろうが、一日も早く十全な教育をうけられるように努力したい。たしかに青年の好学の氣風は興りつゝある。しかしその風が全部の生徒にあるとは認めにくい。しかし学校は一つの集團社会であるから各個人が一致せねば大きな校風振興とはならぬ。こゝは特に俺は俺でやればいゝという風が強い爲、又各科各学年がほゞ独立のような組織も氣分も残っているために、ことにまとまりがない。

しかしともかく最高の美術学校として発足する体制を整えつつあるのであるが、従来のように中等学校在学中から絵が好きだ、上手だからという考えで、一般の学問勉強をおろそかにするとか、入学時の実技試験に合格すればよいという考えでは今後の美校への入学は寛東ないとおもう。実技教官の多くの意見も同様であって、すなおな健全な知能と技術をもつもので一生の仕事として藝術作家として困難に堪えてゆける素質と情熱あるものが欲しいわけである。予科を持たず一般新制高校修了者を入学資格としようとするのも一つはこの教官達の意向を反映させているのである。この点將來の入学志望者諸君にはつきりとわかってもらいたいとおもう。

東京美術学校教務主任 村田良策

（『美術手帖』第四号、昭和二十三年四月）

⑧ 校内雑居、寄宿舎

戦前の本校には学生寮は無かった。それを設ける契機となったのは、終戦直後に倶楽部その他の建物に家を失った職員や生徒が雑居